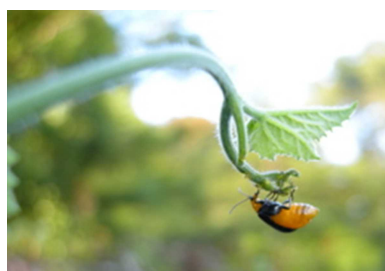


ウリハムシとウリ

1. クロウリハムシ

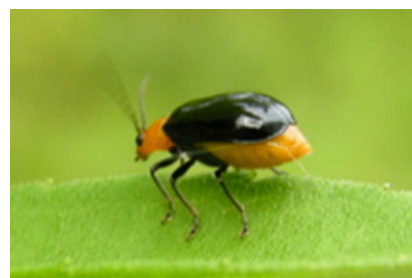
ウリハムシは全体が黄色、クロウリハムシは翅が黒色です。翅より腹部がはみ出ているふっくらとし、いかにもたくさんの卵を産みそうな体型をしています。キュウリを栽培すると被害を受ける昆虫でウリバエとよばれ、成虫に葉をかじられて穴が開いたり、幼虫に根を食べられるなどします。近年はあまり見かけなくなりました。春に苗の近くに産卵し、夏に成虫が羽化しますので、ハウス栽培やポット苗を買って早い時期に収穫するようになった今は、



カラスウリとクロウリハムシ

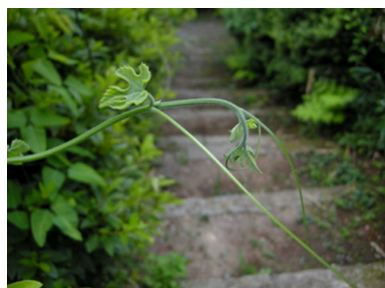
ウリハムシにとって暮らしにくい世の中になっているのかもしれませんが。自然界ではウリの仲間を食べていますので、打吹山ではカラスウリのまわりで見かけることがあります。栽培植物を食べる昆虫は大発生をして害虫という名をもらうのですが、ライフサイクルが異なると生きていけなくなります。

葉食性の甲虫の仲間をハムシといい、ユリハムシやヨモギハムシなど特定の植物を食べるように特化しています。カブトムシほど体が硬くなく、小型でよく飛び回ります。



クロウリハムシ

2. カラスウリ



カラスウリ

花は知る人のみが鑑賞でき、つるに下がる果実が多くの人々の目につくのがカラスウリです。

7月から8月にかけて、夜間に直径10cmばかりの大きな白いレースをまとった花が開きます。日の出前にはしぼむため、意図して出



カラスウリの花

かけないと見ることはできません。昼間のうちに生育場所を見つけ、開花直前の蕾(つぼみ)を確認しておくことです。打吹公園の動物園周りと椿の平の上が安全に観察できるでしょう。雌雄別株です。一晚花ですが、雄花は1ヶ所に複数つき、次々と開花するので何日も続けて見るができます。

雌花は受粉するとウリが実ります。花粉の運び手はガです。運が良いと大きなスズメガの仲間が蜜を吸うために訪れるところに出会います。花筒が長い長い口吻をもったガが選ばれ、暗闇でも見えるように白い花になったと考えられています。相互依存の不思議な進化の結果です。より大きなウリが実るキカラスウリの花は、レースの出来が悪くて見栄えがしません。



キカラスウリの花

果実は種子が熟すると赤く色づいて食欲をそそりそうですが、秋遅くまで残っているところをみると人気がないようです。種子は打出の小槌型をしていますので、子どもの時は集めたものです。